



## 情報を迅速に公開するとともに、皆さまとのコミュニケーション活動を積極的に推進します

お客さまのご意見・ご要望をお聴きするとともに、  
当社の事業活動をお伝えする

フェイス・トゥ・フェイスの  
コミュニケーション活動を推進しています。

2015年度は、  
延べ18万人を超えるお客さまと対話しました。



訪問活動



出前講座



対話の会

### ■ お客さまと経営層との対話

地域の消費者団体や経済団体、NPOなどさまざまな立場の皆さまから経営層がご意見を伺う対話の会を開催しています。

皆さまからは、原子力発電をはじめとするエネルギー問題、お客さまとのコミュニケーション活動、社員意識・組織風土の改革などに関するご意見をいただきました。

また、当社からは、中期経営方針の具現化に向けて、原子力の安全性・信頼性向上の取組みや、競争時代に対応するための組織と人の変革への決意などをお伝えしました。



経営層による「お客さまとの対話の会」(福岡支社)



この他にどのような取組みを行っているの？

詳しくは裏面へ

迅速・的確な情報公開に努め、  
積極的な情報発信を行っています

●情報公開の徹底

事業活動全般の情報について、記者発表やホームページ、パンフレット等、さまざまな媒体を通じて積極的に公開・発信しています。

また、事故の発生など、お客さまや社会に影響する事象や、法令違反・企業倫理に反する行為などについても迅速・的確な情報公開に努めています。

〔事故や法令違反等に関する情報公開実績〕

	2013年度	2014年度	2015年度	【主な内容】
供給支障関係	24	36	22	● 電気料金の算定誤り
原子力関係	2	1	1	● ヒューマンエラーによる供給支障事故
設備トラブル	6	8	6	● 刈田発電所新1号機の運転停止
その他	2	1	3	
合計	34	46	32	

●原子力関連情報の公開とコミュニケーション活動

原子力発電所の安全対策の取組みや、発電所の運転状況等の情報を、記者発表やホームページを通じて、積極的に公開しています。

川内原子力発電所の再稼働時には、川内原子力総合事務所に臨時プレスルームを設置するなど、広報体制を強化し、迅速・的確な情報公開に努めました。

また、九州全域での訪問活動や発電所見学会などで、原子力発電所の安全対策についてご説明するなど、さまざまな機会を捉えたフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーション活動を行い、皆さまのご理解や信頼を得られるよう努めています。



再稼働の様子を臨時プレスルームで公開  
(川内原子力総合事務所)

●さまざまな媒体を通じた積極的な情報発信

電力の安定供給や再生可能エネルギーの取組みなどを、多くのお客さまに知っていただき、共感いただけるよう、テレビやインターネットを通じて情報を発信しています。

また、停電情報や非常災害の復旧状況を携帯電話メールやフェイスブックなどでお知らせしています。



CM(私の仕事 電気を守る篇)



←Facebookでの  
非常災害における復旧状況の発信



YouTubeでの  
動画による  
事業活動の発信

女性の目線で  
わかりやすくお伝えしていきます。



佐賀支社エリアでは、さまざまな職場から集まった35名の女性社員で「女性理解活動チーム」を結成し、出前講座や原子力発電所見学会のご案内などを行っています。

東日本大震災以降、お客さまの原子力に対する疑問や不安の声を多くいただいております。女性の目線でわかりやすくお伝えしたいと思い、この活動に参加しています。

結成から2年半、延べ6,000名を超えるお客さまとお会いし、厳しいご意見をいただくこともありましたが、「社員の顔が見えて安心した」という声をいただくと、改めて直接お話をすることの大切さ、やりがいを感じます。

今後も、より身近に感じていただけるよう、チーム一丸となって活動していきます。



(後列右から7番目)

ほり ゆうこ  
佐賀営業センター コールセンター 副長 保利 裕子